取材日：平成 25 年 10 月 21 日（月）・28 日（月）
取材先：東ソー株式会社四日市事業所・四日市市立富田小学校（四日市市）
レポーター名：堀江　室田　古山
◇◆◇

東ソー株式会社四日市事業所と四日市市教育委員会との連携による“出前”理科授業

～東ソー株式会社四日市事業所の取り組む活動～

東ソー株式会社四日市事業所では、私たちの生活で身近に利用されている様々な製品（例えば、スーパーのレジ袋やスナック菓子の袋、粘着テープといったものなど）の原料となる石油化学製品を作っている。

東ソー株式会社四日市事業所がある霞コンビナートは、「第 3 コンビナート」と呼ばれ四日市公害の経験をふまえ環境問題を考えてつくられた出島形式の埋立地だ。コンビナートは、グリーンベルトと運河で隔てられ、市民の生活と分離されている。また、東ソーでは CO2 排出事業所の役割として、環境活動に様々な面から取り組んでいる。例えば、資源を無駄にしないための古紙のリサイクル回収、車を使わず公共交通機関を使ってできるだけ CO2 の排出を減らす月 1 回のエコ通勤を行っている。また、地域貢献の一環として、四日市市教育委員会と同事業所の連携による“出前”理科授業を行っている。

～“出前”理科授業～

子どもたちの理科離れが指摘される中、四日市市では、子どもたちの科学への興味・関心を高めさせるとともに、学習の有用性を実感させる機会とし、学習意欲を向上させることを目的として、小・中学校との連携教育を実施している。その一つが、東ソー株式会社四日市事業所が実施する“出前”授業だ。

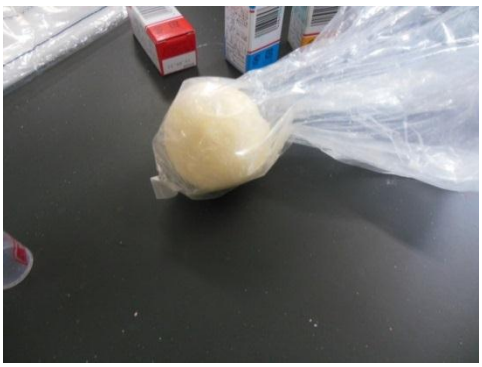
記者が見学させていただいた四日市市立富田小学校での“出前”授業では、バスボム（入浴剤）づくりを行っていた。バスボムは誰でも簡単に作ることができ子どもたちは実験を楽しみながら、自然と化学について学んでいた。また、四日市のコンビナートの歴史や環境に関するクイズなども取り入れ、地域や企業のことを知ってもらえるよう工夫されていたのも特徴的だった。体験した小学生らは「東ソーさんのことを知れてよかった」「難しそうな入浴剤作りが思ったより簡単にできて楽しかった」と話し、東ソー株式会社、科学に興味を持ったようすだった。同事業所の担当者・赤桐賢治さんは「出前授業を繰り返す中で、子ども

たちに地域や私たちの会社に関心を持ってもらい、理科の面白さを理解してもらえるよう試行錯誤してきました。その結果、子どもたちにわかりやすく説明するスキルを習得することができました」と語る。

また、“出前”理科授業では、現役社員だけでなく OB も一緒に子どもたちに教えることもあるそうだ。幅広い人が関わりながら、理科の楽しさや東ソー株式会社のことを伝えようとするなかで、事業所全体がひとつになっているように感じた。

子どもたちに身近にある“科学の力”を学ぶ機会を提供するこの連携事業は、理科離れを防ぐ取り組みであると同時に、将来の担い手となる子どもの育成につながっていた。

“出前”授業の様子。
東ソー四日市事業所の方が子どもたちにバスボムの作り方を教えている。



できあがったバスボムは市販で売られているものそっくり。

～取材後記～

今回、東ソー株式会社四日市事業所と四日市市教育委員会との連携による“出前”理科授業を取材・見学させてもらい、環境活動や出前授業と地域に貢献していることがわかりました。出前授業は、わざわざ学校まで行き、子どもたちに理科の面白さを知ってもらおうとこれからの子どもたちに期待をよせているように感じました。自分もバスボムを作り、普段の生活にはあまり気にかけないような理科の楽しさ・面白さを子どもたちと一緒になって実感し、いい体験ができました。これからも“出前”理科授業を継続して、多くの子どもたちに理科の面白さを知ってもらいたいです。